



《校訓》 明朗 剛健 創造

太田中だより

令和3年5月28日発行 厚岸町立太田中学校 第3号

～めざす生徒像～

自ら考え、共に手を取り、ふるさとの未来をつくる太田の子

- ◆ 自分の考えをもち、自ら進んで学び、創意工夫する生徒 (知)
- ◆ 生命を尊重し、互いの存在を思いやり、協力して活動する生徒 (徳)
- ◆ 自己の心身の健康を保持増進し、体力の向上に努める生徒 (体)

6月の行事予定

日	曜	行事
1	火	
2	水	ALT 研修
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	町植樹祭
7	月	研修 運動会合同練習
8	火	中体連壮行会
9	水	ALT 図書館バス 運動会合同練習
10	木	
11	金	運動会準備
12	土	
13	日	小中合同運動会 定時退勤日
14	月	振替休日
15	火	朝会 地引き網体験
16	水	職員会議 ALT Q-Uテスト
17	木	委員会
18	金	生活リズムチェックシート配付 歯科保健指導
19	土	Jr. バドミントン選手権 地区中体連(野球)
20	日	地区中体連(野球)
21	月	
22	火	朝学習開始
23	水	ALT 図書バス 研修
24	木	委員会
25	金	心臓検診 SC 来校 歯科保健指導
26	土	地区中体連(バドミントン・野球)
27	日	地区中体連(バドミントン・野球)
28	月	朝会 定時退勤日 ALT
29	火	期末テスト
30	水	期末テスト 歯科保健指導

感染症が問い掛けているもの

校長 沼田 卓二

はじめに、5月に入り、前期生徒総会や交通安全教室、小中合同クリーン作戦。また、2年ぶりのPTA奉仕作業など、新しい生活様式での活動が軌道に乗り始めた矢先、5月16日～31日までの期間、北海道を対象地域として緊急事態宣言が出されました。連日、北海道の新規感染者数が全国最多を記録し、宣言延長の可能性など、依然として予断を許さない状況が続いています。(5月26日現在)

このような時だからこそ、改めて「感染症」について考えることは将来にとっても有用であると考え、長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授である、山本太郎氏の著書「疫病と人類」(朝日新聞出版)を紹介させていただきます。この著書は、感染症と人類の関係性について、著者が世界各地で感染症対策に取り組んできた自身の経験を踏まえ、これまで多くの感染症がヒト社会に発生し、時の社会に大きな影響を与え、世の中のあり方を変えてきた感染症の歴史を通し、ポストコロナ時代のヒントを探る内容となっています。

著書の中で山本教授は、流行する病原体を選び、感染症のパンデミックを性格付けるのは、「社会のあり方」ではないかと述べています。

- ① 熱帯雨林の開発など、自然破壊や地球温暖化によって野生動物の生息域が縮小し、ヒトと動物の距離が縮まる。
- ② 野生動物と共存していたウイルスは調和を乱され、行く場所を求めてヒト社会に入り込んでくる。
- ③ その結果として、「新たな感染症」が頻繁に発生する。
- ④ 増加した人口、都市への密集、世界の隅々まで発達した交通網が「新たな感染症」の感染拡大の原動力となる。

また、山本氏は、現代の「社会のあり方」そのものが今日の結果を招いているとするならば、と前置きをしたうえで(以下引用)

「その結果が、多くのあらたなウイルスの発生だとすれば、あるいはそれが、数十年間に頻繁に見られた現象だったとすれば、それは逆に、新たな感染症の出現頻度を抑制するためには何が必要かを私たちに教えてくれている。」(下線沼田)

山本教授の慧眼は、人類の行動の帰結によって感染症との関係性が変化していくこと、つまり、私たちの行動が変わることによって感染症の発生頻度を抑制できる可能性を示唆しているところにあります。私たち一人ひとりの行動によってこれからの社会のあり方を変えることができるのであれば、これからの社会を担う子どもたちの前に立つ教育者の重要性がより一層高まります。そして、ポストコロナの時代の社会を創る主体者は、子どもたちだけではなく地域社会に住む私たち一人ひとりであるということに自覚的でありたいと改めて思いました。

むすびに、6月13日(日)に2年ぶりに小中合同運動会を開催する予定です。競技練習でグラウンドを駆ける生徒の姿から、明るい未来を感じます。生徒は「明日への希望」そのものです。現在、運動会当日を目指し、太田小学校・中学校全員で協力して準備を進めています。保護者ならびにご家族の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いじめアンケート 集計結果より

5月、今年度1回目のいじめアンケートを実施しました。「嫌な思いをしたことがある」と答えた生徒はいませんでした。「友人が嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがある」と答えた生徒は1名いました。校内いじめ対策委員会で対応にあたっております。また、「いじめはどんな理由があっても許されない」という

質問には全員が「そう思う」と答えていました。この正義感を今後も大切にしていきたいと思えます。今回のアンケートの他に、教育相談など生徒の思いを汲み取る機会を設定し、生徒が安心、安全な学校生活を送ることができるよう、学校全体での取り組みを推進してまいります。

本を寄贈いただきました。

釧路市の酪農家、浅野達彦様より、町内小中学校に対して、農業をテーマにした漫画「銀の匙」全15巻と「百姓貴族」1～6巻を寄贈いただきました。6月から読めるように準備しておりますので、生徒の皆さんは楽しみにして下さい。